緑の現況と課題及び計画改定の視点

資料３

現行計画の概要

目標年次　平成 32 年（2020 年）

基本理念

○**現況の特色ある緑**を生かした**立川らしさ**にあふれる緑豊かなまちづくりを進める。
○そのために、市内の**貴重な自然環境や人々がはぐくんできた郷土景観**を守り、それらを未来に伝え、さらに、これからの**立川市にふさわしい新しい緑**を創出する。
○そしてその実現のために、**市民や事業者と一体となって**考え、取り組む。

基本方針と施策体系

	基本方針	「時」をつなぐ		「人」をつなぐ
		立川の**歴史と風土がはぐくんできた緑**を守っていきます	これからの**立川にふさわしい緑**を増やしていきます	**市民と一体**となって緑を育てていきます
「緑」をつなぐ	**骨格をつくる水や緑**をつなげていきます	緑を「まもる」ための取り組み	緑を「ふやす」ための取り組み	緑を「そだてる」ための取り組み
「人」をつなぐ	**身近な緑**を広げていきます			
「緑」をつなぐ	**生き物と共存できるまちづくり**を進めていきます			

目標水準

【緑地】
市域面積の約 30%
（概ね 740ha）
【公園】
市民一人当たり
16.5 ㎡

緑の配置方針

現行計画の進捗（主な実績と課題）

目標の達成状況

	目標 平成 32 年（2020 年）	計画策定時 平成 10 年（1998）年	現況 平成 30 年（2018 年）	達成見込み
緑地の確保目標	市域の約 30% （概ね 740ha）	約 27% （約 670ha）	約 26% （約 640ha）[暫定値]	困難
公園の確保目標	市民一人当たり 16.5 ㎡	10.96 ㎡	9.88 ㎡	困難

※緑地の確保面積の現況については、東京都より借用予定の緑被地データの分析結果を踏まえ、見直します。

施策の進捗

○：主な実績、▲：主な課題、※：現行計画に記載のない新たな取り組み

施策	対象とする緑等	
緑を「まもる」ための取り組み	樹林地	○保護樹林地の指定、市による保全管理（1.74ha） ○都との協定等による崖線上の緑地の保全、管理 ▲防災（崖線の崩落防止工事）と緑の保全との調整
	河川・水辺 玉川上水	○市民のスポーツの場としての多摩川の水辺活用（野球場整備） ○東京都との協定に基く、残堀川憩いの水辺の管理 ▲法規制等により困難な水辺空間の整備、活用に関する取り組みの見直し
	農地 屋敷林 社寺林等	○生産緑地地区指定による農地保全（市内の約 75%） ○保存樹木指定による樹木保全、借地公園内の社寺林の保全管理 ▲相続、維持管理負担を背景とした保護樹木の指定解除への対応
緑を「ふやす」ための取り組み	公園	○大規模公園（泉町西公園）整備、提供公園により市の設置・管理する都市公園 約 12.5ha 増加（H10→H30） ▲計画的な用地取得が困難
	道路 公共施設	○都市計画道路・幹線道路の新設・拡幅、市庁舎建設に伴う緑化の実施 ▲既存緑道の拡幅、生活道路や鉄道沿線の緑化、交差点部のポケットパーク整備は安全面、用地取得等の面から困難 ※街路樹のあり方方針を策定予定（H32 年度）
	民有地の緑	○まちづくり指導要綱に基づき一定規模以上の開発行為等おける緑化 ▲申請の減少により生垣補助事業を廃止（ただし、危険ブロック塀対応として撤去工事等への助成を創設（H30 年度））
緑を「そだてる」ための取り組み	緑とのふれあい	○市民団体や事業者の活動を協力・支援しながら公園緑地の整備を推進 ▲サイクリングロード整備の見直し
	普及・奨励	○緑化推進協力員会、公園等清掃美化協力員会、公園等管理協力員への支援事業を通じて普及啓発を実施
	支援のための体制づくり	○を実施、また「緑化まつり」においてボランティア活動を広報 ▲ボランティア団体構成員の高齢化

目標達成見込み及び施策の進捗をふまえた今後の課題

- 今後の人口減少、緑の質の維持向上、管理・活用の視点等を考慮した計画全体の目標及び指標の見直し
- 実現方策が不明確な施策、実現可能性の低い施策の見直し
- 市民、事業者との協働による取り組みの充実
- 近年の法改正、国及び東京都の施策に基づく新たな視点の反映
  例）気候変動への適応、生物多様性
  生産緑地地区の保全
  都市公園の管理　等
- 進捗管理を適切に行うための指標設定
- 施策の実績を定量的かつ客観的に把握するための基礎的なデータの蓄積

	対象とする緑等	市民意識	本市の緑を取り巻く社会情勢の変化
		○自然環境の豊かさや公園の存在は、本市の魅力の一つ（市民満足度調査、来街者意向調査） ○樹林地など自然の緑、水辺の緑は豊かだと感じられる一方、民有地の緑は少ない印象	○少子高齢化、人口減少 ○**ＳＤＧｓ、気候変動への適応**等、持続可能な社会、環境への取り組みの重要性の増大
「まもる」	**樹林地などの自然の緑**	○保全施策に対するニーズは高い ○保全活動にも一定の協力意向 **→市の重要な魅力、資源として継続的な保全が必要**	○樹木の大径化・老齢化や、気候変動による台風の大型化等を背景とした**倒木リスクの増大**
「まもる」	**河川・水辺 玉川上水**	○保全施策のニーズが非常に高く、市の貴重な緑の資源の一つとして認識 **→市の重要な魅力、資源として継続的な保全が必要**	○局所的集中豪雨の発生頻度の増加等を背景とした、**雨水流出抑制対策としての緑地や農地の保水・遊水機能**の活用
「まもる」	**農地 屋敷林 寺社林等**	○保全は必ずしも重視されていない ○一方で、市民農園の利用や野菜購入には高い関心があることから、利用価値は認識 **→意識のギャップを埋め、都市農地、郷土景観の保全に対する意識を高めていくことが必要**	○都市における農地の位置づけの変化（宅地化するものから、あるべきものへ） ○**生産緑地地区 2022 年問題**による宅地化の懸念
「ふやす」	**公園**	○新規整備に対するニーズは低い **→既存の公園の改良・再整備（遊具や休憩場所の充実等）、利用中心の子育て世代の管理運営への参画が課題**	○公園の管理運営、民との連携等の**マネジメント**の必要性 ○遊具、樹木の**安全管理**に対する基準、ガイドラインの強化
「ふやす」	**道路 公共施設**	○中央地域を中心に、公共空間の緑化と緑の適切な維持管理に対する市民の期待は、非常に高い **→まちの魅力となる緑の創出、育成が重要**	○**暑熱対策**の一つとしての緑化（緑陰形成）推進
「ふやす」	**民有地の緑**	○緑は増えてほしいと思われているが、民有地の緑化支援策に対するニーズは低い ○一方で、自宅でできる花や緑の育成に高い関心 **→花や緑に親しめる暮らしにつながる啓発や支援が重要**	○都市緑地法「市民緑地認定制度」創設等、**加速化する緑地の整備における民と連携**
「そだてる」	**市民、 事業者 との協働**	○緑を「そだてる」取り組みは、全般的にあまり重要視されていない **→緑の保全、緑化を市民にとって身近な問題として認識していただくことが課題**	○高齢化や自治会加入率の低下に伴う**活動の担い手の減少**

課　題

○本市の魅力として認識されている**自然の緑の保全、公園の更なる魅力アップ**
○緑の保全、緑化の推進における**市民、事業者との連携促進**

○適切な維持管理
- 所有者の維持管理負担軽減に向けた市民協働による支援
- 崖線の防災対策との調整、倒木リスクへの対応等、安全性の確保

○保全施策の継承と環境・防災減災の考慮
- 立川市らしさを代表する緑の軸、郷土景観としての多摩川、残堀川、玉川上水等の保全
- 緑地、農地保全と連携した流域の雨水流出抑制、水循環の保全

○新たな制度活用を含む保全方針の設定
- 特定生産緑地地区制度、生産緑地地区における建築規制の緩和、都市農地貸借法、農の風景育成地区（東京都）の活用等の保全策の具体化
- 農地の多面的機能に関する市民の普及啓発

○身近な公園の魅力向上
- 公園の管理運営に関する方針・施策の設定
- 行きたくなる・足を止めたくなる特色づくりや、小規模公園の機能分担などによる、既存の公園の魅力向上

○公共空間における緑の「育成」
- 「緑視」の視点、暑熱環境の緩和等を考慮した、緑豊かさを感じられる植栽、樹木の育成
- 安全対策を含む適切な維持管理の推進

○市街地、敷地の特性に合わせた多様な緑化の誘導
- 緑化技術の進歩を考慮した誘導すべき緑化の再検討
- 優良事例の奨励普及などを通じた「よい緑」の共有

○緑への関心喚起と多様な参加機会の創出
- 緑を身近な問題として捉えてもらう第一歩としての緑の魅力の積極的発信
- 多世代の参加促進に向けた、地縁型の組織に依存しすぎない、多様な参加形態の提供
- 支援を必要とするフィールド、活動したい人、活動を支える人のマッチング

計画改定の視点

■考慮すべき前提条件
- 短い計画期間　５年間（2020～2024 年度）
- 様々な不確定要素の存在（生産緑地地区 2022 年問題　等）

目標の見直しと成果が見えるアクションの具体化
- 計画全体の成果を適切に把握できる目標設定
- 将来的な方針＋５年間の具体のアクションの設定

緑を「いかす」（適切な維持管理・育成、マネジメント）の視点の追加
- まもる、ふやす、そだてるを柱としつつも、維持管理、マネジメントに関する取り組みを強化

新たな課題（気候変動への適応、防災減災、農地保全等）**に対応する方針、取り組みの設定**
- 環境、防災減災に資する緑の確保
- 農地の多面的機能と近年の制度改正を踏まえた保全施策の展開

市民、事業者と協働に向けた取り組みの充実
- 樹林地、樹木所有者への支援の充実
- 民有緑化の取り組みの充実
- 緑の保全・創出・育成活動への市民、事業者の参加促進

適切な進捗管理を可能とする取組指標等の設定
- 取組実績の客観的、定量的把握につながる指標設定、データの整備・蓄積